最後の砦

（新天地発見！！！@岡山）

とろん

２０１１年３月１１日の大津波の日、ボクら家族３人はネパールのポカラに居た。愛妻はるかは妊婦だったので、放射能渦巻く日本にはもう戻らないでタイ北部の桃源郷ＰＡＩの自宅で出産し、タイに永住することを強く勧めた。だけど、なぜだか彼女は「とろんさんの実家、岡山で産みたい！！」と決めていたのだ。

２０１３年３月２１日の春分の日、ＰＡＩ郊外のボクらの村「ムーンビレッジ」での１０８日間の祭り「たましいのかくじっけん」第二弾が終わり、ＰＡＩ産まれの６歳の長男「太一」が「小学校に入るなら岡山じゃないと行かない！！」とボクらに脅迫宣言し、１２年間暮らしたＰＡＩライフにトドメを刺された。

２０１３年７月２６日のマヤ暦の元旦、３人目の子、兆（きざし）が岡山の実家で産まれ、翌年の２月８日にはなごみ処（太一や）の５周年を迎えた。前代未聞の記録的な大雪だったけど、多くの友人たちがお祝いにやってきてくれて、次は１０周年だ！！と張り切っていたら、その半年後に大家さんから立ち退きを言い渡されてしまった。

２０１５年３月２１日（土）の春分の日、天空のなごみ茶屋（太一や）、のオープニングセレモリーを挙行することになった。ボクに火打石での（火起こし）を伝授してくれた四国剣山に棲む「大村カズ」の神事で始まる。

太一や移転が決まったとたん、フシギにアチコチから新天地情報が入ってきて、その一つ一つを丁寧に訪ねては吟味してゆく日々が続き、最終的には４人の友人から強く勧められていた（鬼の城）という標高４００メーター弱の山に絞られてゆく。大和朝廷から送り込まれた「桃太郎」（吉備津彦命）と戦って成敗され首をはねられ（鬼）にされてしまった「温羅」（うら）、という男が棲んでいた山城だ。鉄と水軍と大陸交易でヤマトを凌ぐ繁栄を誇っていた「吉備王国」の王様の砦、だ。その標高４００メーター弱の（鬼の城）に至る直前左側に「新山」（にいやま）という廃村寸前の部落が在って、最後まで残り棲んでいた老夫婦が山を下りた！！という情報を耳にして、ボクと愛妻はるかはそのタイミングで空家になった家を訪ねてみた。その空家の他に部落全体の空家を探索したのだけど、背丈のある草や木の藪で山道が隠されていて下からは見えても辿りつけない上のほうの空家も在った。だけど、なぜだか、この部落風景に接した瞬間、ボクの（新天地）へのスイッチが、あ！！っと入ったのだ。

早速（新天地発見！！！）の喜びをＰＡＩで創った村（ムーンビレッジ）で一緒に住んでいた家族「あすか＆ひで」に電話してみたら、今、奈良の家から出雲大社に車で向かっているところだという。是非ともあの老夫婦が棲んでいた空家が借りれますよう！！と祈りを込めてボクの「想い」を彼らに伝え、縁結びの出雲大社に向かって両の手を合わせた。早速ボクらはその「想い」を「形」にしようと老夫婦の居所を探し当て、ボクらの「想い」を伝えたら、まだ畑もやりたいし他人には棲んでもらいたくない！とあっけなく断られてしまったのだ。

「あすか＆ひで」家族は出雲大社でボクらの「想い」を祈ってくれたあと、わざわざ遠回りしてボクらに会いに来てくれた。しかも（新天地）に上って、隅々を自らの足で歩き周り、その全てを写真に収めてきたのだ。空家を断られたことを言い出せないでいるボクらに「この空家のことでしょ？？？」と「あすか」から写真を見せられて、あ！！っと死ぬほど仰天してしまった。ボクらが辿りつけなかった部落の一番高い処に在る空家風景だった。その空家に至る道を教えてもらって、彼らが奈良に戻った日、ボクらは早速その空家に向かってみた。（鬼の城）直前の本道右側に一本だけ大きな木が在って、その木の下には木製の椅子とテーブルが設置されていて、その道路向かいに隠れるように山に入る急勾配の小道が在った。その山道を入ったとたん、空気があ！！！っと「ファンタジー」へと変わり、しばらく歩くと高台の空家が目に映ってきた。そして空家の広い前庭に立った瞬間、突如の絶景風景！！！。

土間の台所の隅に井戸が在った。そして山の上から絶えず水が細く流れていたので、その水源を見つけようと森の中の小道を下向きに上っていた時、あ！！っと目の上に石の鳥居が出現し、その予想外の現れ方に鳥肌が立ってしまった。鳥居には「山王宮」と刻印されていて、神社に上り向かう参道は水浸しで両側からはアチコチ樹木が倒れて参道を塞ぎ、廃村の極みの風景が痛々しくボクに迫る。神社に至る最後の苔むした石段の一番下の右側には湧水の溜まり場が在って、自然の手水処となっていた。ここで手や口を清め、傾き荒廃しきった本殿と対面し、両の手を合わせた瞬間、あ！！！っと「うちゅう」が動いた。

大雪の「おかげ」で（太一や）５周年がドラマティックに盛り上がり！立ち退きの「おかげ」で決定的な（新天地）と遭遇し！！そして、この最初の空家を断られた「おかげ」でキセキが起きた！！！

今、岡山は日本の東に渦巻く放射能から脱出してきた家族の「おかげ」で、異様に活気づいている。原発至近距離の川内村の「漠原人村」からやってきた「大塚愛」さん家族、埼玉で「てのひら祭り」を続行してきた「しほ」さん家族、お祭りＰＯＮちゃんの娘たち「宇摩」「維摩」の家族などなど、いま、岡山は大津波の「おかげ」で西へ移動し（新天地）と遭遇し、感染力絶大のイノチ命いのちを放ち始めた岡山移住組の「お母さん」家族たちと、地元岡山の魅力的な「お母さん」家族たちが融合して（イノチ）の渦を巻き起こしている。何者かが仕組んだようなドラマティックな「おかげ」様、一瞬先は、ひ、か、り、の物語が、今、岡山のアチコチで起きている。

２０１５年３月２１日（土）の春分の日は、放射能から逃げて関東から福岡に辿りついたとたん、お風呂のなかで逝ってしまった旧友「春のうらら」（ＰＡＩのムーンビレッジのガネーシャ祭壇の下にも分骨が眠っている）の命日、５回忌だ。この日が、天空のなごみ茶屋（太一や）のオープニングになったのも、偶然や必然を超えた「当然」の「うちゅう」の道理なのだろう。

とろん、より

＊新天地のマップ等はとろんのサイトからご覧下さい。http://amanakuni.net/toron/